

旬の一品(逸品)魅力発信事業

木曾地方事務所

1. 目標

- ・木曾ならではの食材や郷土料理を使って、キラリと輝く一品(逸品)で宿泊客をもてなそう！【地産地消】【観光振興】
- ・食材提供の取り組みを通して、みんなが健康で長生きし、活力あふれる地域を維持しよう！【健康長寿】
- ・無理のない仕組みで、息の長い取り組みにしよう！

2. 現状と課題

旅館

木曾郡の宿泊客数は年々減少・・・

木曾郡内宿泊客数の推移

年次	宿泊客数(千人)
H1	715
H6	600
H11	500
H16	350
H21	300
H24	277

(H24 県観光地利用者統計による推定値)

宿泊客と日帰り客の割合

地域	宿泊客 (%)	日帰り客 (%)
木曾	19.2	80.8
全県	32.7	67.3

宿泊率が低い → 旅館の魅力向上が必要！

宿泊先選びに重視する点

【旅館の声】
宿泊客の約4割は旅館の食事に期待！
地元食材を使ったおもてなしがしたい！
⇔地元食材を入手しにくい

生産者

木曾では四季折々にバラエティーに富んだ作物が収穫できる！
⇔高齢の小規模な生産者がほとんど

65歳以上の基幹的農業従事者数

地域	割合 (%)
長野県	69%
木曾郡 (2010 農林業センサス)	80%

農家1戸当たりの耕作面積

地域	耕作面積 (a)
長野県	63.5a
木曾郡 (2010 農林業センサス)	46.4a

→品質・形状のそろった品物を大量に生産することは難しい(従来の市場出荷では対応不可)
→生産物直売所での販売と自家消費が多い

御嶽はくさいの出荷状況

さらに、大量流通に乗っているものさえも地元に出回っていないのが現状

？ 地元食材をうまく入手する方法はないか

？ 少量であっても張り合いをもって生産活動ができないか

3. 事業内容等



地方事務所

旅館・生産者の実態を十分把握し、
お互いが無理なく長期的に関係を維持できる方法を探る

○対象範囲：木曾町(モデル実施)

○木曾で収穫できる農林水産物について、両者の知りたい情報の調査

〔野菜、山菜、きのこ、
魚、畜産物〕

〔生産者が収穫している品物・量・時期〕

〔旅館が使いたい食材のデータ〕

○協議会の開催

〔両者の情報提供、マッチング
・実施に向けた流通体制の検討〕

1st STEP

(H26)



意向調査

〔地元食材の使用の有無、理由
使用したい食材の名称、量 等〕



- ・生産物の収穫量調査
- ・生産物の収穫カレンダー作成
- ・伝統食のレシピ集作成

【意向調査】

- ・郵送料(往復)
7,000円
(90円×2×35軒)

【収穫カレンダー、レシピ集作成】

- ・印刷製本費
83,000円
(1,651円×50冊)

○小計 90,000円

2nd STEP

(H26)



協議会設置

旅館組合2名

&

〔調査結果によるマッチング〕
受注・配送手段の検討



特用林産振興会2名
農産物直売所4名

【協議会】(10回開催)

- ・旅費
186,000円
(3,902円×4名)×10回
(733円×4名)×10回

○小計 186,000円

H26 : 276,000円

3rd STEP

(H27~)



- ・実証試験・検証
- ・情報発信



【実証試験・情報発信】

協議会の検討結果により、
H27年度に計上

本格実施

4. 事業効果



- ・旅館の魅力向上による
宿泊客数・リピーターの増加！！
- ・観光地「木曽」の魅力向上！！

- ・農林業生産額の向上！
- ・体を動かして元気に働く！
→健康長寿の維持！！



地方事務所長総合調整推進費の充実

～きめ細やかな地域の課題解決に向けて～

木曾地方事務所

『地方事務所長総合調整推進費』は、

『しあわせ信州創造プラン』地域編の具現化や地域課題解決に有効

『地方事務所長総合調整推進費』は、地域課題解決のための調査・研究等に加え、『しあわせ信州創造プラン』地域編の推進に必要な事業の実施など、市町村からの要望等に応じ、地域の判断で迅速かつ柔軟に実施できるという利点がある。



○全県一律の施策では、対応が困難な課題

地域の課題の中には、全県一律の施策では対応が難しいものがあり、課題に応じて、地域ごとに独自の戦略が必要である。

○様々な地域固有の特性を活かす、きめ細やかな対応

『しあわせ信州創造プラン』地域編の具現化に向けては、地域固有の特性を活かした対応が重要であり、特性をより色濃く出すためには、現状分析や地域の意向把握、関係者の合意形成などを通じて、きめ細やかな対応が必要となる。

《例：木曾地域における現状及び対応》

★有名なそば生産地や多数のそば店がある。地元産そばの生産量が増加する一方、地元消費が少ない。	⇒	★そば店・生産者による消費拡大推進体制の構築、品質の向上等
★外国人宿泊客が県内で最も少ない。外国人は欧米系が多く、アジア系の割合が極端に少ない。	⇒	★外国人観光客の動向の把握、宿泊施設に対する研修の実施
★高卒者の郡内就職率が極端に低い。一方で主力の製造業の人材が不足し、域外から人材を確保。	⇒	★若者への地元企業の紹介等を通じた雇用のミスマッチの解消
★空き家率が県内で最も高い。宅建業者が極めて少なく、不動産取引等の相談窓口がない。	⇒	★町村と連携し、専門業者を交えての施策検討や相談会の実施
★ひとり暮らし高齢者の割合が県内で最も高く、支え合い活動の拠点整備・ネットワーク構築が急務。	⇒	★受け手側のニーズ・支え手側の意向把握のためのアンケートの実施

○早期の効果発現に向けた取組み

木曾地域では、『地域編』の具現化に向けて、町村等と協力しながら、知恵を絞って取り組んでいる。資金面を充実することで、より迅速な事業実施が可能になっていく。



『地方事務所長総合調整推進費』の充実を図る

1所当たり 500 千円 ⇒ 1,000 千円
全県 1,000 千円 × 10 所 = 10,000千円